

大草谷津田いきものの里 自然観察会

蝶に蛙、いろんな<虫偏>を探そう！

太田慶子（千葉市）

日 時：2010年5月16日（日）10:30～12:30 天候：曇のち晴

参加者：子ども24名 大人28名 計52名

担当指導員：太田慶子 木下順次

最初に大草谷津田の話と、スズメバチのこと、自噴水を飲まないで、などの注意事項を話す。

<さて、「虫」という漢字は、もとはマムシを形どったもの（描いた紙を見せて）。人間の身体の作りとあまりにも違う（人間の簡単な姿を描いた図を見せながら、「例えば、ヘビとどう違う？」と子どもに質問をしたら、すぐ「蛇は足がない」と応えてくれた）とか、かつて自然と密接に結びついていた暮らしの中で、マムシなど人に害を与えるたり、小さかつたり姿が変で正体がわからないような生き物を称して「虫」と人間は思うようになったと思われる。そこで、虫偏で表される漢字で谷津田にいるような生き物をリストアップしてみると、カエル（蛙）やトカゲ（蜥蜴）や蛇といった昆虫でない生き物も、かなり虫偏で表記されることがわかる>という解説から始めたが、あまりの多人数に、きちんと見せることが難しかった。



スタートすると、一部の子どもらが走って田んぼに向かい、オタマジャクシやヒルなどを網で捕まえ始めた。その後をゆっくり昆虫や蜘蛛、キセルガイなどを観察するグループと完全に2つに分かれてしまった。けれど、担当以外の3人の指導員の方の助けで、何とか無事に終われた。

田んぼでは、トウキョウダルマガエルらしい声がし、シュレーゲルアオガエルの卵塊とオタマジャクシ、少し大きなニホンアカガエルのオタマジャクシやチスイビルなどが見られた。ヒキガエルは既に小さなカエルになったのか、ちょうど代掻きの最中なのでわからなかつたが、いい機会なので、「昔の千葉の田んぼの多くは<深田>で、人も機械も田んぼに潜り込んでしまい大変でした。そして昔ながらの大草は、今もその大変な田んぼなのです」とも話した。

昆虫・蜘蛛・ザトウムシなどの違いは、その場で絵を描いて説明した。

陽が出ると暖かくなり、シオヤトンボ、ツマグロヒヨウモンやナガサキアゲハ・カラスアゲハ・ジャコウアゲハなどが出てきたが、例年ならたくさん飛ぶはずのモンシロチョウの仲間がほとんど見られなかつた。

参加者の方からは、<虫のことがわかつてよかつた、毛虫が触れるようになった、トンボを捕まえられた>などの感想があつたが、50名を越える多数の場合、狭い谷津田での対応は大変だと感じた。

